

重点項目についての環境配慮概要						内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。							
<b>“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)</b>							
	<b>■室内環境対策</b> (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数 ③事務室について、昼光率2.5%以上を確保している。	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.2	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
					2.2.2	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
				2.2.3	④	配管・配線材の更新必要間隔	
				2.2.4	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥舗装面積を抑え、緑地を多く設けている	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	<b>■エネルギー対策</b> (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧事務エリアにおいてガラスファサードにベンチレーションを行える機構を設ける	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制
			2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用
				2.2		⑧	自然エネルギー変換利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	<b>■資源・マテリアル対策</b> (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材) ⑪節水型の衛生器具を採用。⑫ハロン消火材を使用しない	LR-2	1	1.1		⑪	節水
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム
			2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料の再利用効率
					2.1.2	⑫	非構造材料の再利用効率
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用
				2.5		⑫	部材の再利用可能性
			2.6	2.6.1		⑫	消火剤
				2.6.2		⑫	断熱材
				2.6.3		⑫	冷媒
	<b>■敷地外環境対策</b> (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬敷地に対して、十分な空地を設け風の通りのよい配置としている	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善
<b>“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)</b>							
	<b>■サービス性能対策</b> (⑭耐震・免震/⑮信頼性) ⑭地域係数Z=1.2⑮熱源種の分散化、吊配管などを行っている。非常用発電設備を設けている。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性
					2.1.2	⑭	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑮	電気設備
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法
					2.4.5	⑮	通信・情報設備
<b>“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)</b>							
	<b>■サービス性能対策</b> (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑯多目的トイレ、おもいやり駐車場の採用⑰生産エリアの階高さを十分に確保。耐震壁を外周壁に集め、フロア内になるべく耐震要素を設けないレイアウトとする	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり
					3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ
	<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲敷地内は外周から死角の少ない計画とし、防犯に考慮する	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
<b>“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)</b>							
	<b>■室外環境(敷地内)対策</b> (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉑舗装面積を抑え、緑地を多く設けている	Q-3	1			⑳	生物環境保全と創出
			2			㉑	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		㉒	敷地内温熱環境の向上
	<b>■敷地外環境対策</b> (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬敷地に対して、十分な空地を設け風の通りのよい配置としている	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善